

# 西宮 えびす

平成二十八年 夏号

● 社頭より

● 文化研究所だより

● おこしやまつり・夏えびす、西宮まつり

● 西宮神社の今と昔／本殿、拝殿

① 御神影札について

● えびすさまのお姿について

★ 特別インタビュー  
西田ひかるさん

★ 特別インタビュー



# Hikaru Nishida Interview

特別インタビュー

## 西田ひかるさん

西宮市にお住まいになられ、市の観光大使もつとめておられた西田ひかるさん。当社にもお子さまの初宮詣、七五三詣にお参り頂き、西宮まつりの稚児行列ではお子さんと一緒に参加されています。

海外での生活も長く、日本、海外の両方の文化を知る西田さん。今回特別にお話しをお聞き致しました。

【西田ひかるさん 衣装クレジット】

アイテム名：参考商品 (YUKI TORII INTERNATIONAL / 株式会社トリキ)

問い合わせ先：YUKI TORII INTERNATIONAL 03-3455-3401 東京都港区南麻布1-5-1



## 海外での生活が長かったとお聞きしましたが？

生まれて十カ月から中学一年までアメリカで育ちました。

帰国してからは、英語が中途半端にならないようにアメリカンスクールに通いました。

アメリカで生活していた子供の頃、休みの間の短い期間ですが、冬・夏休みには必ず日本に帰省し、祖父母の実家がある神奈川県で親戚が集まって、年末にはお餅を蒸して食べたり、季節の行事を多く体験して、日本の行事も幼いころから親しんでいました。

結婚してこの西宮市に住まうようになり、西宮神社に縁ができて家族で様々な行事に参加してひとつひとつ想い出が深まって嬉しい縁です。

子どもたちも神社が大好きでよくおばあちゃんに連れられてお参りして、境内神池の鯉に餌をやっています。

緑がたくさんの環境が非常に貴重ですし、この落ち着く雰囲気なんともいえず好きですね。



## 十日えびすについて

たくさんの参拝者の中毎年、父母、子どもたち皆と家族揃ってお参りさせて頂いています。子どもが小さい頃はまだ人が比較的少ない朝一番にお参りしていました。露店もまだ開いていない時間でしたが、子供が大きくなってからは夜、露店も開いていて賑やかな時間帯にお参りするようになりました。あの楽しい雰囲気が子供たちは大好きなので。

子どもがまだ小さい頃は普段、神社の前を通っただけで「おまつり今日やる？」と毎回聞かれています(笑)

また、あの大マグロを見たときは衝撃を受けましたね(笑)あの大ささにびっくりしました。マグロの前にはいつも行列ができていますが、朝早くお参りしている時はあまり列ができていないので願掛けしてお金を貼っていました。今年は人のあまりの多さに写真を撮っただけでした(笑)





## Hikaru Nishida Interview

### えびすさまについて

東京にいた頃でも、テレビで開門神事も見たことはありますが、詳しくは知りませんでした。我が家では義父が十日えびすで吉兆を受けて得意先に配ったりすることもあります。

えびすさまや西宮神社のことを関西の方はみなさん親しみを込めて「えべっさん」と呼ばれることに馴染みがなく、不思議で最初はなかなか慣れませんでしたね。

今ではもう嘘みたいに「えべっさん」と私も呼ばせて頂いています。正式名称の西宮神社の名前が出てこない時も（笑）。

それまでは商売繁盛の神さまというのもあまり知らなくて新鮮でしたね。

### 西宮にお住まいになられて

結婚直後はアメリカで暮らしていました。主人の実家の縁あって西宮市に住んで十年になります。

西宮は近くに海も山もあって、自然豊かで、人口も多く文化的な面もあり、都会の良さと自然と両方ある魅力的なまちですね。

今日はいよいよの雨なんです。それでも一歩境内に入ったらとても気持ちが良いです。

子どもが生まれてからも初宮詣から色々な行事にお参りさせて頂きました。まだまだ知らない行事もたくさんあります。知りたいですね。

境内も広く、緑もあり、ルールを守るといふ学びもあり、子供と一緒に訪れるには非常によい場所ですね。

アクセスもいい、歴史のある神事もあり、大人子ども共に楽しめるような行事もあり、密着して知れば知るほど楽しめる。たくさん想い出を作っていける私にとって大切なところですよ。





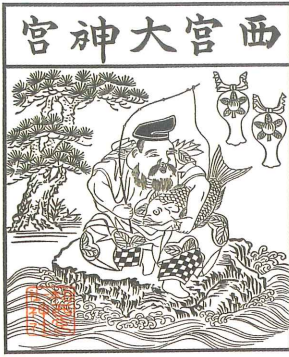
# えびす様のお姿について

えびす信仰の特色のひとつとして挙げられるのが、そのお姿が画、また像として多く作られていることがあげられます。そのお姿が思い浮かぶ神さまといえはえびすさましかおられないでしょう。

ご存じの通り釣竿を持たれ、鯛を抱えられ笑顔が浮かべられるふくよかなえびすさま、そのお姿は信仰の対象としておまつりされるだけでなく、縁起物・工芸、土産物としても見ることができます。

そのお姿はご神体から絵画、土産物まで多岐に亘って見られ、その懐の広さは正にそのご神徳を表しているようです。

(1)えびすさまのお姿のお札  
おみえふた  
御神影札



多くの神社で頒布されて各家庭でおまつりされる神札は主に神棚にお祀りする箱札、大麻等の類のものが多くありますが、当社ではえびすさまのお姿を描いた御神

影札が氏子地

域近隣のみならず、全国各

地でおまつり

されており、現

在でも年間お

よそ三十万体的

の御神影札が

全国各地で頒

布されており

ます。

えびす信仰、

また西宮神社

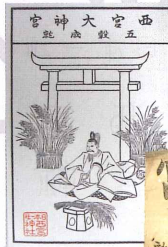
の名が全国

津々浦々までそ

の名前が知られるようになったのはこの



御神影札「神馬」



御神影札「田の神」



長野県 館林家御神影

本國中惣檀家」であることを示されまし  
た。以後「正像」として頒布、これはすな  
わち当社の御神影札に版權が許可され  
て、西宮神社が独占的に頒布することが  
認められました。

これ以降、各地

に当社の御神影札

頒布を行う願人

(社用係)が置か

れ、年を経て社勢

は東山道、東海

道、北陸方面また

遠く東北地方に

まで普及し、多く

の家庭で御神影

札がおまつりされ

るようになりまし

た。

えびすさまはそ

こともあったようです。またあまりにも  
偽札を配るものが増えたため西宮神主  
が偽の御神影札はご神威も薄く正像で  
ある当社の御神影札をおまつりするよう  
奉行所に届けた記録も多々残っています

さて全国各地で任命された御神影札を

頒布する願人(社用係)ですが千七百年

代の元文・寛保宝暦・明和年代の本社神

主家発行の免許状を先祖より受け継が

れ、今日に至るまで御神影札の配札を続

けておられる方もおられます。

明治維新を迎えて世の体制が変革し、

従来の方法での配札が困難になってきま

したので、明治十二年に内務省認可の西

宮神社教院が本社に、そして西宮教会地

方本部、講社事務取扱所が各地に設置

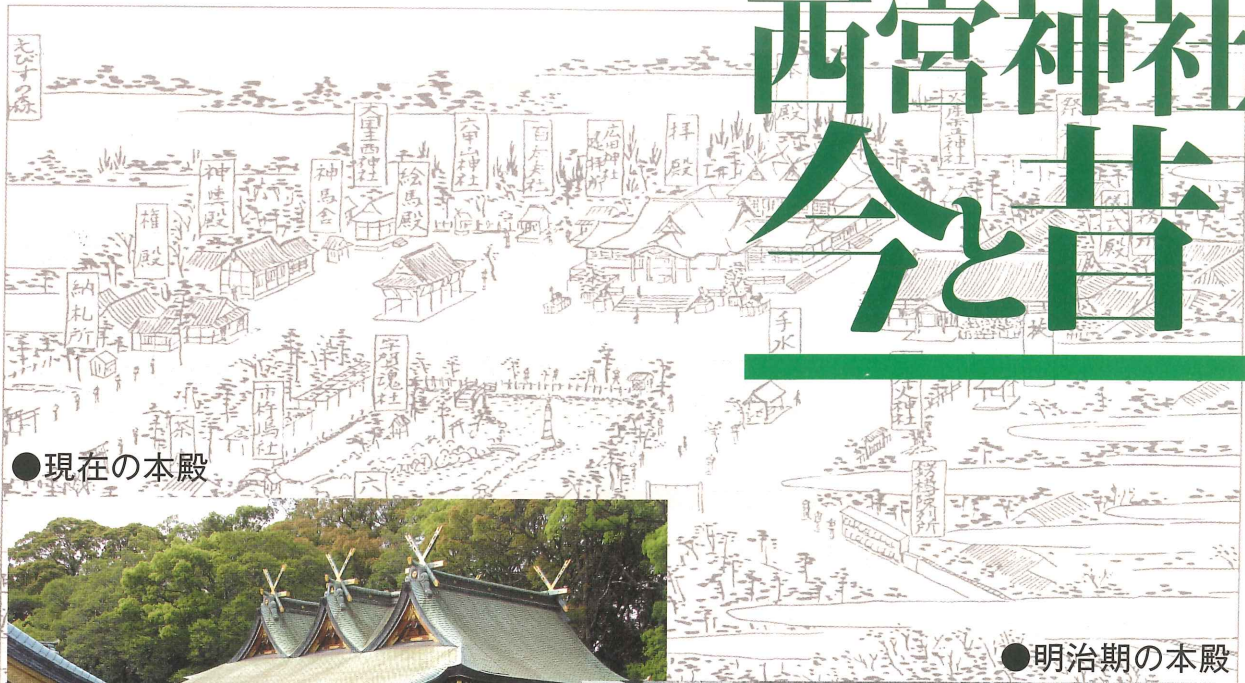
されました。明治十六年には神社付属の

西宮講社として改組され、取扱所と称す  
る社用係を管轄する西宮地方講社事務  
所が各地に設置され、本社より奉送する  
御神影札を頒布する現在の制度が整い  
ました。

明治二十年代以降、全国各地でえびす  
さまの御分霊奉斎の気運が高まり、明治  
二十八年には岐阜県中津川西宮神社が、明  
治三十四年には群馬県桐生西宮神社な  
どが分霊、建立されました。その際に分  
霊の条件として、神符の本社よりの申し  
受けが行われ、本社直授の御神影札を各  
社の祭礼日に社頭でも広く頒布される  
ようになりました。



# 西宮神社 今と昔



●現在の本殿



●明治期の本殿



昭和36年空襲で焼失した本殿が元の姿のまま復興(ただし屋根のみ檜皮葺から銅板葺に変更)されました。先の戦災により被害を受けた神社で元の形に復元したのは当社だけとされており。阪神淡路大震災、また平成23年の本殿復興五十年記念の改修を経て現在に至ります。

寛文3年(1663)に江戸幕府4代將軍徳川家綱公によって再建された三連春日造(西宮造)の本殿は国宝に指定されていましたが、昭和20年8月5日に空襲によって惜しくも焼失してしまいました。

●明治期の拝殿



●現在の拝殿



拝殿も空襲にて焼失し、昭和36年に復興されました。

本殿とは異なり、木造から鉄筋コンクリート造へとその姿を大きく変え、また参拝者の便宜をはかるべく土間式拝殿に改めました。先の阪神淡路大震災でも被害はありませんでした。



# 文化研究所だより (九)

## 大坂城代の西宮神社参詣

江戸時代の西宮神社には、幕府役人や参勤交代の諸大名など、武家の参詣者も多くいました。今回はそのなかでも大坂城代の参詣についてご紹介したいと思います。

大坂城代(定員、五〜六万石の譜代大名、図1)とは、当時幕府直轄の城であった大坂城を、大番(旗本)加番(定員四、数万石の大名)・定番(定員二)〜二万石の大名などの在番衆を率いて守衛するのみならず、大坂諸役人の統率や西国大名の監視の任を負い、京都所司代とならぶ上方における幕府の重職であり、城代を経て所司代や老中へと昇任していく、譜代大名にとって出世の一階梯でありました。では、享保二年(七七)、城代内藤式信参詣時の社用日記をひもといてみましょう。

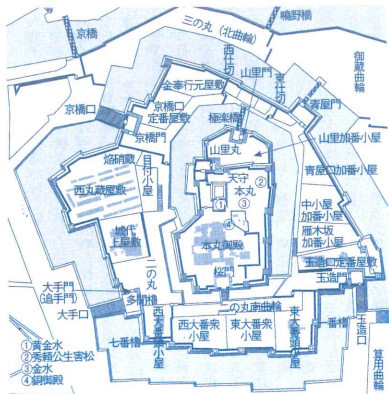


図1:江戸時代の大坂城(敷田貞「武士の町大坂」中公新書、2010年、17頁より転載)。現在の西の丸庭園に城代の屋敷が確認できる。

まず、神主吉井宮内へ城代社参予定との報が届いたのは、三月二十一日、恒例の江戸年頭礼からの帰路、京都にて受取った祝部からの書状によって

した。神社帰着後は社中の掃除と拝殿すべての畳替え・敷砂を行うなどお迎えの準備を整え、対外的には大坂の担当役人へ大坂えびす願人組頭などのツテを使つての問合せや、尼崎藩当局への届け。藩役人による宝物の事前チェックなどを経て、四月五日の参詣当日には午前六時頃から祝部一名は装束を着用して枝川まで、神主は祝部・神子を連れて赤門前の鳥居まで出迎えに行き、尼崎藩寺社役人も待ちうけるなか、午前九時頃に城代が到着しています。社参の様子については社用日記から引用してみよう。

「鳥井之内二而乗物より御下り被遊、宮内御案内申上御社内江御入、拝殿へ御着座被遊、御神拝被遊候而神宝、悉御一見被遊候、社頭来由書付・間尺・末社等書付ハ先達而差上ケ、御受取被遊候、御機嫌宜候、御直三神主へ被仰候ハ、劍珠・龍明珠縁起写シ候而差上候様被仰候、神輿蔵開神輿御覽、御神祭二渡り候哉と御尋被遊候二付、宮内御答申上候ハ、社頭衰微極貧二候へハ御興渡り之祭礼も三月十八日二候へ共、得不相勤申候由申上候、仮殿御一覽、扱々大破之儀与被仰候」

「意訳」(城代は)鳥居の内でも乗り物からお降りになり、神主がご案内して境内へお入りになりました。拝殿へお座りになり、御神拝をなされて、全ての神宝を二覧になりました。神社の由緒書などは予め提出しており、ご機嫌はよろしゅうございました。劍珠などの縁起を写して提出するようにと神主へ直接おっしゃられました。神輿蔵を開けて神輿をご覧になり、「祭礼の際に神輿途御があるのか」とお尋ねになったので、神主は「三月十八日に神輿途御の祭礼があるが、神社が困窮しており行うこと

ができません」と申し上げました。仮殿をご覧になり、「なんとまあひどく破損していることよ」とおっしゃられました。」

幕府重職の参詣とあつて、神職の出迎えについても大変丁寧であり、神社にとって領主である尼崎藩主の参詣時には、神主は本殿前、祝部らは拝殿付近で出迎えるのに対して(社報平成二十四年夏号参照)、神主は赤門前の鳥居、祝部二人にいたっては枝川まで出迎えに行っています。また、尼崎藩寺社役が同行していることや、城代といえども乗り物のまま境内へ参入することはできず、鳥居をくぐったところで下乗して徒歩で参拝していることも確認できます。なお、午後一時頃には西宮を發つています。

大坂城代の参詣は頻繁にあることではなく、なぜこの時期参詣があつたのか、あるいは別の目的のついでに立ち寄つたのか、詳細は不明です。吉井宮内が尼崎藩寺社役人へ城代来社予定の旨報告した際、藩役人である「何共珍敷事申来り合点不参候」と発言しています(三月二十五日条)。ただ、由緒書などの提出が求められていることから、単なる物見遊山ではなく、管轄地域の視察という目的があつたとも考えられます。

- (1) 駿河田中藩主。在任は正徳(二七二)〜享保(三二七)八。
- (2) 武庫川河口部の支流で、大正期に廃川となり現存せず。

大坂(城)代	所司代 恭式
内藤登則 式信	同内在番 本堂重徳
同内城番	寺方三 孫崎 周八 百人
渡邊 倫中 基綱	松平 大藏 加藤 勝以 前藏
同内加番	八月代、四人 兎
山屋 中小屋	酒井 貞見 守 堀 元 京 亮
吉原 馬木坂	京極 玉勝 正 松 平 貞 亮

図2:享保2年の武蔵(ぶかん)。大坂城代の項に内藤式信が確認できる(江戸幕府役職武蔵編年集成、第8巻、東洋書林、1997年)。

(西宮神社文化研究所主任 松本和明)



# おこしやまつり

六月十四日(火) 関西で一番早い夏まつり



びわの配布



宮司祝詞参上



甘酒のふるまい

阪神間で最も早く行われる夏祭です。えびすさまが鳴尾の地から現在の西宮神社に向かわれる途中にひと休みされたと伝わる「おこしや跡地」まで神職、お世話人、本町供奉、鳴尾供奉、びわ娘らが行列を組んで神幸します。

はつよせい  
発興祭

午後二時 おこしやまつり

御旅所のおこしや跡地に到着の後、祭典を執り行います。またその後えびす舞の奉納、びわを無料配布、甘酒のふるまいを行います。※どちらも先着三百名の方に頒け致します。

かんせいはつよせい  
還御発興祭

午後九時 還御発興祭  
午後九時三十分 本社還御祭

## 七月

夏えびす夏の十日えびす

一月の十日えびすから半年後にあたる七月十日は境内末社、沖恵美酒神社(あらえびす神社)の例祭を斎行致します。沖恵美酒神社はえびすさまの力強い荒御魂をまつる神社で、七月中「夏えびす」として境内は賑わいます。

七月三日(日)

あらえびす神社奉納子ども相撲大会

午前九時 幼稚園の部  
午後一時 小学生の部

七月七日(木)

七夕天の川 夕刻〜午後九時 神池・天の川

七月九日(土)・十日(日)

あらえびす夜まつり 午後一時〜午後九時

あらえびす神社境内では特設授与所を設け、あらえびす守(五百円)を授与致します。

また祭典の前日と当日、境内松林にて「あらえびす妻酒まつり」が行われ、当社と縁深い「エビスビールの飲み比べ」近隣飲食店の屋台が軒を連ねます。

七月十日(日)

沖恵美酒神社祭 午前十一時

七月十五日(金)〜十八日(月)

全国梅酒まつり 午前十時

七月二十日(水)

夏祭 午前十時

えびす万燈籠 午後六時

七月三十一日(日)

境外末社住吉神社夏祭 午前十時

午前十時二十分 子供船だんじり巡行  
午後四時〜午後七時 縁日屋台

# 西宮神社 祭事暦

## 六月

十四日 十四時 おこしやまつり

十七日 十一時 境内末社市杵島神社祭

三十日 十六時 夏越大祓(茅の輪神事)

## 七月

一日 十時 上旬祭 併 氷室神事

三日 九時 沖恵美酒神社奉納子ども相撲大会

七日 夕刻から七夕天の川

九日 十四時 あらえびす夜まつり 宵宮

十日 十一時 境内末社沖恵美酒神社祭

十四日 十四時 あらえびす夜まつり

二十日 十時 境外末社住吉神社例祭

二十日 十時 夏祭 湯立神楽

二十日 十八時 えびす万燈籠

三十一日 十時 境外末社住吉神社夏祭 舟だんじり巡行

十六時 住吉神社境内縁日屋台

## 八月

二十四日 十一時 境内末社火産霊神社祭

## 九月

二十一日 十一時 境内末社庭津火神社祭

十五日 十五時 稚児行列



# 西宮まつり

本年は九月二十一日、  
二十二日の二日間齋行致します。

## 九月二十一日(水)

午後三時 稚児行列

午後五時 宵宮祭

午後五時三十分 子ども樽みこし

午後六時三十分 奉納演芸

## 九月二十二日(木祝)

午前十時 例祭

午後一時三十分 渡御祭発輿祭

午後三時二十分 海上渡御

午後六時 還御祭

※各行事は天候等により変更となる場合があります。  
予めご了承ください。

## 渡御祭

平成十二年に約四百年ぶりに海上渡御が  
再興してより、毎年二十三日の秋分の日  
に渡御祭を斎行して参りましたが、本年  
は秋分の日が二十二日に当たるため、渡  
御祭は二十二日の午後に海上渡御のみ齋  
行致します。



十七時 西宮まつり宵宮祭  
十七時三十分 子ども樽みこし  
十八時三十分 奉納演芸会  
二十二日 十時 例祭  
十三時三十分 渡御祭

## 十月

一日 九時四十分 宮水まつり(宮水発祥の地記念碑前)

十一時三十分 えべっさんの酒醸造祈願祭

十二時 「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」

「西宮酒ぐらルネサンスと食フェア」  
二日目

十四日 十時三十分 御神影頒布始祭

十七日 十時 神嘗奉祝祭 神宮遥拝

## 十一月

三日 十時 明治祭

二十日 十時 誓文祭

二十二日 十時 造宮記念祭

二十三日 十時 新嘗祭

◎毎月一日・十日・二十日、十時より旬祭を斎行してお  
ります。どなたでもご参列いただけます。時刻までに拝  
殿にお越しください。

◎毎朝八時三十分(十月から九時)より、神職と共に大祓  
詞を奏上する朝拝・方度祓を行っております。  
どうぞ自由にご参列ください。

※各行事の時間は変更になる場合があります。



# 社頭より

## 御社用日記 講演会

平成二十八年二月三日付で代々  
廣田・西宮の神主が書きとめてきた  
『御社用日記』の歴史的価値が認め  
られて「西宮市指定重要有形文化  
財(古文書)」に指定されました。

これを記念して記念講演会を三  
月六日に神社会館にて当社文化研  
究所の松本主任研究員を講師とし  
て開催、参加者はみなさん熱心に耳  
を傾けておられました。



## 『絵画奉納 愉快な福神絵』



奈良県・三輪坐恵比須神社の崇  
敬者である画家の堀内次雄氏が、三  
月二十一日に二点の絵画を奉納され、  
奉告祭を執り行いました。

その明るく福々しいえびすさま  
の絵は見る人を笑顔にすること  
でしょう。

## 梅樹奉納奉告祭



二月二日、あらえびす夜まつりにも毎年出店頂いている紀州田辺うめ振  
興協議会(田辺市・JA紀南)により、このたび高品質な梅を持統的に生産  
するシステムが世界農業遺産に認定され  
たことを記念して、南高・古城・小梅と三  
種の梅樹の苗木を奉納され、赤門横神苑  
に植樹し、関係者参列のもと拝殿にて奉  
告祭を執り行いました。立派に育ち、実を  
つける日が楽しみです。





## とおかし

9月 / 月見菓子



7月 / 戎金鑄



6月 / 紫陽花・溪流



これまではテーマを決めてひとつの菓子店が毎月調製していましたが、この四月より西宮市内に店を構える菓子店がそれぞれ月ごとに時節の菓子を調製し、「とおかし」とすることと致しました。十日の中旬祭に参列された方におさがりとしてお渡し致しております。

(数に限りあり)

## 境内末社 松尾神社の旧狛犬

平成七年の阪神淡路大震災で境内の建造物は大きな被害を受けました。境内末社松尾神社の狛犬も倒れ、混乱に紛れて行方がわからなくなっていました。倉庫職員寮の建設にあたり土地を掘り返したところ二十二年ぶりに発見されました。

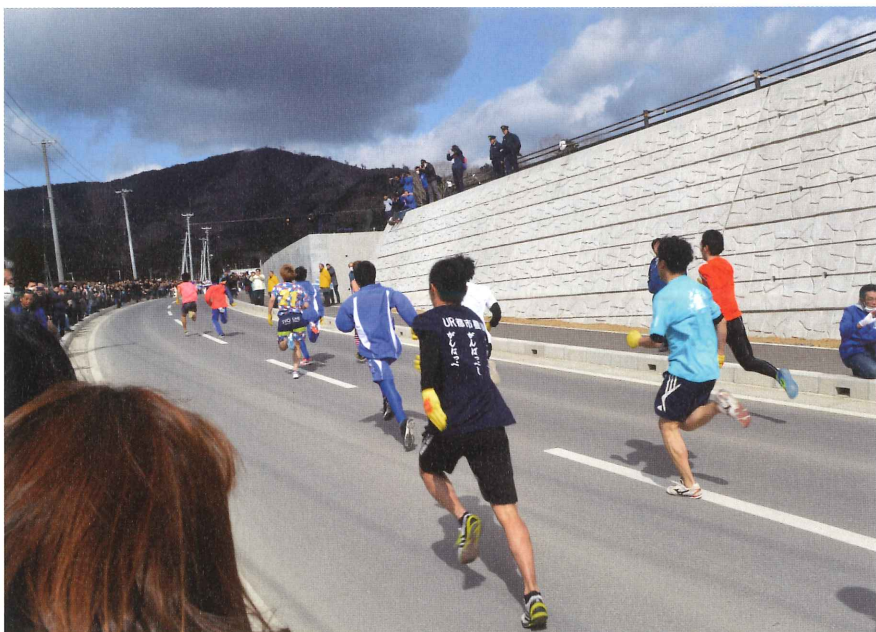
台座から落ちて顔や胴の部分が欠けておりますが震災の記憶を受け継ぐために、損壊のあとをそのまま祈禱殿横参道脇に設置致しました。



## 「津波伝承 女川復幸男えらび」

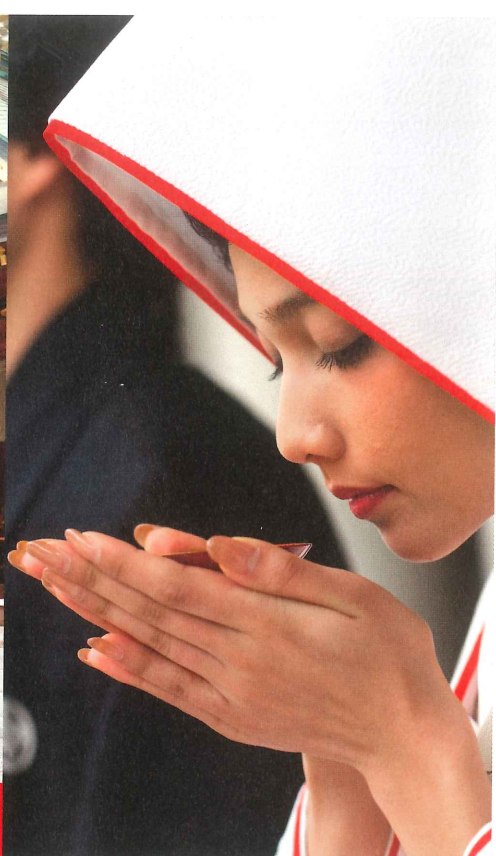
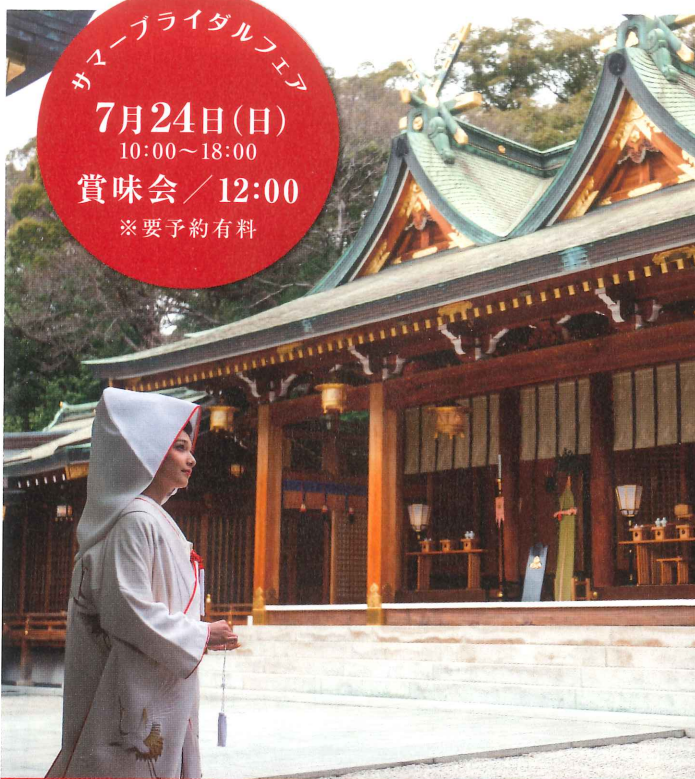
東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県牡鹿郡女川町では毎年、女川町復幸祭を開催。これにあわせて「女川復幸男選び」を行っています。

これは津波には先ず高台に向かつて避難する意識を持つことを後世まで伝えるために行われています。当社の開門神事を参考に行われており開門神事講社講長平尾亮氏、また本年一番福水田道成氏が参加致しました。



平尾講長の「逃げる」という合図にて、参加者は一斉に高台に駆け上がりました。復幸男には二年連続で高田将さんが選ばれ、表彰式で当社のおびすさまのご神像が渡されました。





サマーブライダルフェア  
7月24日(日)  
10:00~18:00  
賞味会 / 12:00  
※要予約有料

西宮神社会館 西宮市社家町1-17 お電話(0798)23-3311  
info@jinjyakaikan.com

### 日供講社・本えびす講社講員 新規入講のお願いについて

西宮神社講社本部では、えびすさまのご神徳の宣揚と発展を期する為に、多くの方に日供講社・本えびす講社にご加入頂き、大いなる福をお受け頂きたく存じます。

是非、各講社にご入講賜りますようご案内申し上げます。

●日供講社 年講費 五千円  
(えびすさまの朝夕のお食事を奉納頂く講です)

●本えびす講社 年講費  
松三万円、竹二万円、梅五千元、  
鶴講員(五名以上の団体のみ)二千円

また平成二十九年三月をもって本えびす講正講員待遇がなくなりますので正講員の方は梅講員(五千円以上)に変更頂くか、お知り合いの方五名以上で団体(鶴講員二千円、但し代表は梅講員以上)としてご入講賜りますようお願い申し上げます。

### 編集室から

ここに社報四十五号をお届け致します。

今号より夏は西宮に縁のある有名人・著名人の方にお話しをお伺い致します。

今回は女優の西田ひかるさんにお話しをお伺い致しました。西宮市にお住まいになられて十年、芸能活動は二十五年を迎えられたとのこと、今後益々のご活躍をお祈り申し上げます。

また熊本で発生した大地震ではご存じの通り熊本城、阿蘇神社を始め、多くの家屋の倒壊等多くの被害が確認されております。熊本県は大理石で作られた日本で最も大きい高さ十メートル、重さ三百二十トンのえびすさまの像が天草・倉岳に見られる等えびす信仰が盛んな地域です。  
心からお見舞い申し上げ、速やかなる復興をお祈り申し上げます。

twitterで西宮神社の最新情報を  
[http://twitter.com/nishi\\_ebisu](http://twitter.com/nishi_ebisu)

西宮神社 公式サイト 検索  
<http://nishinomiya-ebisu.com>



西宮神社  
公式サイト  
QRコード